

| | | | |
|------------------------------|---------------------------------------|----------|-----------|
| 大学名 | 九州大学 | | |
| University | Kyushu University | | |
| 学部/研究科 | 芸術工学研究院 | | |
| Faculty/Department | Faculty of Design | | |
| 研究指導者 | 富松 潔 | 職名 | 教授 |
| Research Advisor | Kiyoshi Tomimatsu | Position | Professor |
| 帰国留学生 | 江 振維 | | |
| Former International Student | Chiang, Chenwei | | |
| 派遣期間 | 2014年10月31日 ~ 2014年11月7日 (8日間) | | |
| Period of Stay | 8 days (Oct. 31, 2014 - Nov. 7, 2014) | | |

<帰国留学生プロフィール/Profile>

| | |
|-------------|--|
| 国籍 | 台湾・台北市、中レキ市、台南市 |
| Nationality | Taiwan Taipei |
| 所属機関 | 元智大学・助教 |
| Affiliation | Yuan Ze University / Assistant Professor |
| 現在の職名 | 助教 |
| Position | Assistant Prof. |
| 研究分野 | デザイン学 |
| Major Field | Design |



元智大学 江振維助教研究室
Assistant Prof, Chiang office

<研究指導者からの報告/Research Advisor Report>

| |
|---|
| ①研究指導概要 / Outline of Research Guidance |
| <p>国際会議プロシーディングスの研究事例から関連研究の調査、研究方法の調査を行い情報を共有した。セミナー、レクチャ、パネル討論などを行い研究の方向性を議論した。今後の国際交流、研究交流、学生交流について意見交換を行った。江くんの研究室ゼミのプレゼンテーション指導、デザインシンキング指導、作品の講評などを実施した。その結果、本年12月上旬に江くんの研究室の学生約30人を連れて来日し、インタラクティブデザイン調査と九州大学富松研究室とのプレゼンテーション交流を行うこととなった。また、ITRIとの産学連携の可能性について打合せを行い、今後アジアデジタルアートアンドデザイン学会(ADADA)への参加協力および台湾での研究連携をすることとなった。さらに台南市にある成功大学とも共同研究や研究交流、学生交流の打合せを行い、江くみを橋渡しとして、九州大学と成功大学の部局間交流協定締結への道筋を作った。</p> |
| ②研究指導の成果 / Results of Research Guidance |
| <p>江振維くんは本学で博士学位を取得後、台湾へ帰国して出身大学である元智大学に教員(助理教授)として採用されており、研究室を主宰し大学院および学部の学生を指導している。私が研究指導を行うことで、江くんの研究指導力を大幅に上げることが期待できる。また、江くんが指導する学生が日本へ留学することを勧めることができ、研究生、修士課程、博士後期課程などで受入れることが期待でき、研究室同士の交流も活発にできると考えた。そこで、以上のような事項について打合せを行い、12月上旬に学生30名を引率して九州大学へ来て交流を行うなど、今後の具体的な行動計画を作成することができた。</p> |
| ③訪問大学等での学術交流 / Scholarly Exchanges Done at Universities Visited, etc. |
| <p>江くんの教育研究歴はまだ浅く、授業コンテンツ、カリキュラムシラバスの内容、授業方法、組み立てについては指導する必要がある。インタラクティブデザイン研究については、コンピュータプログラミングによるメディアアート表現にフォーカスを合わせているが、新しいトピック、アジアの特性を活かしたテーマ設定などについては情報を共有する必要がある。元智大学において作品プレゼンテーションと講評を実施した。成功大学と九州大学大学院芸術工学研究院との間に学生交流および学術交流の部局間交流のレベルでプログラムをおくことを合意した。台湾工業技術研究院とも、今後の研究交流について意見交換を実施した。その結果、江くみを両国の架け橋として国際会議の開催、国際論文誌の発行で相互協力するなど、研究連携をすることとなった。成功大学とは共同研究や研究交流、学生交流の打合せを行い、江くみを橋渡しとして、九州大学と成功大学の部局間交流協定締結への道筋を作った。</p> |

<帰国留学生からの報告/Former International Student Report>

①研究指導の成果 / Results of Research Guidance

富松研究室との合同の集中講義を開講し、ラピッドプロトタイピングを学ぶための実践的なチーム制作を行った。授業ではArduinoを用いたインタラクティブなアート作品を制作し、その後展示会も開催し、様々な視点からの作品についての意見交換を行った。

②今後の計画 / Further Research Plan

今回の成果で得た制作のノウハウを活かし、今後は台湾の大学にてラピッドプロトタイピングの授業を精力的に行っていきたい。更に新しいハードウェアを導入し、デジタル制作技術を向上させ、台湾のMaker Faireに参加し外部の方とのつながりをもつことで、新たなビジネスチャンスにも繋げていきたい。

③本事業に対する意見・感想等 / Your general impression and opinion about the Follow-up Research Guidance

今回は主に、教育の方針を学ぶ目的での交流であったが、今後は教員同士の交流だけではなく、学生の主体的な交流を目指していきたい。主に移動費のみの援助であったが、渡航先での諸活動についても予算を組んでいただけたら、より思い切った活動ができるので、可能な限り考慮していただきたいです。

